

はぐく 地域活力の種を育む狭山元気大学事業 ～専用キャンパスを持った市民大学～



狭山市市民部自治振興課 近藤 成

1 狭山における大人の学び舎として

狭山市は埼玉県西部地域に位置し、川越市、所沢市、入間市、飯能市、日高市に隣接しています。地域の中央を南西から北東へ入間川が流れ、国道16号や西武新宿線などの交通インフラを軸に、地域の特色を生かしたまちづくりが進められてきました。

地域社会を取り巻く状況は時々刻々と変化していますが、人口の高齢化や子育て環境の孤立化といった大勢に本市も呑み込まれています。そのような中、

市民と行政の協働によるまちづくりには、市民、行政相互の新しい連携形態と、その受け皿となる地域社会の形成が求められます。狭山元気大学は、設立目的として「行政と協働してまちづくり地域づくりを担う人材の育成」と「人材が活かされる仕組みをつくり、それが地域に根差す」ことを目的として、平成23年度に開設されました。現在3年目を終えようとしています。平成22年度の試行実施時を含めると4年目となり、修了した方々の地域での活躍が次第に市内で広く聞こえるようになってきました。

2 狭山元気大学のあゆみ

狭山元気大学のこれまでの来し方は下表のとおりです。

<ul style="list-style-type: none"> 平成20年度～平成21年度 	<p>狭山市役所総合政策部内に担当所管を設置。地域活力向上に寄与する市民大学について、庁内や市民による検討委員会を組織し、かつパブリックコメントを実施。大学の開設プラン検討策定を経る中で、市民との協働による大学開設のための準備委員会が発足。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 平成22年度 	<p>狭山元気大学として、開設プランで謳われた3学科を試行開設。各学科1コース（計3コース）にて授業を実施（受講生57名）。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 平成23年度 	<p>狭山元気大学の本格開設。3学科7コースで授業を実施（受講生126名）。開設準備委員会が発展的に解消され、大学運営・講座企画・地域連携・広報部門を市民との協働で担う各委員会が組織される。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度 	<p>廃校跡を利用した専用キャンパス（狭山元気プラザ内）がオープン。キャンパスを利用した入学式が開かれ、同年度に3学科8コースを実施（受講生140名）。修了生団体の組織・活性化と、地域との連携を担う「地域連携推進室」を開設。市教育委員会生涯学習事業（狭山・シニア・コミュニティ・カレッジ）の授業の一部をキャンパスにて実施開始。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度 	<p>学科編成にとられない6コース（内1コースは秋開講）で授業を実施（受講生138名）。生涯学習事業（狭山・シニア・コミュニティ・カレッジ）と元気大学事業（狭山元気大学）の統合を推進。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度 	<p>生涯学習事業（狭山・シニア・コミュニティ・カレッジ）と元気大学事業（狭山元気大学）が統合された新しい（仮称）市民大学が狭山元気プラザに開校予定。</p>

3 平成25年度の狭山元気大学

平成25年度開講のコースは下表のとおりとなっています。

平成25年度開講コース名	ねらい	学ぶこと（抜粋）	受講生数
まちづくり担い手養成コース	市民・NPO法人・企業・行政の協働によるまちづくりの担い手を育てる	まちづくりに関する基礎知識と、ビジネス・ボランティア手法への理解深化。先進地の視察等	26人
パパ・ママのお助け隊養成コース	地域における子育て支援者を育てる	子どもの発達・保育・ケガ対応知識と、子育て支援現場・環境の現状把握	19人
健康づくり・介護予防サポーター養成コース	自身だけでなく、地域の方の健康を支えられる人材を育てる	健康・介護予防知識と、対応する各種運動の実習	17人
生涯学習案内人養成コース	市内の生涯学習環境を広く見渡し、市民に案内できる人材を育てる	市民活動情報の把握方法と、相談対応・助言技能	12人
庭木のセミプロコース	剪定技術を通しての地域貢献の担い手を育てる	庭木・花木の基礎知識や手入れの技術	22人
地域の防災リーダー養成コース	市内各地域における自主防災組織の核となる人材を育てる	防災基礎知識・先進事例把握と自主防災組織運営	42人

4 活動拠点たる専用キャンパス

現在の狭山元気大学を考える上では、専用キャンパスが入る形で平成25年度にオープンした狭山元気プラザの存在が大きくなっています。

今年度行われた、行われている狭山元気大学修了生団体や修了生個々の活躍の中で、狭山元気プラザで行われたものを主に列記すると、

- ・コミュニティビジネス起業家応援イベント
「この指とまれIN狭山」
- ・産前産後のママのための「ふれあいカフェ」
- ・地域の高齢者のための仲間づくりと健康づくり
「元気サロン」
- ・ワンデイシェフによるコミュニティカフェ運営
- ・地域住民向けビリヤード体験講座

などが挙げられます。上記は催事物であったり継続事業であったりと、範囲・性格とも多様な内容です。旧小学校として校舎・体育館を備える大きな専用キャンパスが、現役の受講生のみならず修了生全体の活動拠点として発展していているところでは

*狭山元気プラザとは

市内で平成21年度をもって廃校となった小学校の改修工事を経て、跡利用施設として平成24年5月に誕生した複合公共施設が狭山元気プラザです。構内は、狭山元気大学ゾーン、福祉活動支援ゾーン、地域利用ゾーン、准看護学校ゾーンに区画され、大学の専用キャンパス以外に様々な機関が入居しています。結果、地域住民を始めとして多様な世代が集い交流できる施設となっています。



狭山元気プラザ正面玄関



狭山元気プラザ中庭

*大学関係者の拠点として

狭山元気大学は、市民との協働で組織される各種委員会を中心に多くの関係者によって運営されています。大学運営の方向性を審議する運営委員会、そして分野ごとに組織された専門委員会（講座企画、地域連携インキュベーション、広報の3部門）。受講生・修了生の団体組織化の相談や、地域とのつながり支援、各種助成金情報提供を担う地域連携推進室（室員は専門委員）。そして実際の各コースの授業運営を担うコースマネージャー（専門委員を兼ねる）やボランティアスタッフの方々。さまざまな大学関係者が教室で会議・打ち合わせや資料準備を行い、昼はコミュニティカフェで交流するなど、拠点としての専用キャンパスが在るゆえに関係者間の連携も緊密になります。

また、狭山元気大学学長もほぼすべての委員会に出席し、授業スタッフや事務局の相談にこまめに応じるなど、大学内組織の連携に率先して寄与されています。学長は、平成23年度の本格開設時より、市内にキャンパスを置く西武文理大学の小山周三名誉教授が就任されており、視察対応やPRなどの対外対応も含めて、精力的に活動いただいています。

5 狭山元気プラザでの修了生の活動実例

前々項で表示した狭山元気大学のコース・授業の実施状況については、狭山市のホームページ^{*1}並びに狭山市市民交流ポータルサイト「さやマルシェ」の狭山元気大学のページ^{*2}で随時情報が更新されています。市ホームページ内には「さやマルシェ」へのリンクが貼られていますが、そこで専門委員会（広報部門）が作成している狭山元気大学のページが、過去のコース情報も含めて充実しています。

この項では、地域での子育て支援者（もちろん現役パパママもOK）を目指す方向けに開講されている「パパ・ママのお助け隊養成コース」（平成22年度～）と、まちづくり・環境・介護等、まちを元気にする活動をビジネス手法で考える「コミュニティビジネス起業コース」（平成22～24年度）の2コースについて、修了後の活動実例を紹介します。

*「パパ・ママのお助け隊養成コース」の場合

まず、産前産後のママのための「ふれあいカフェ」を取り上げます。

この「ふれあいカフェ」は、パパ・ママのお助け隊養成コースの修了生団体の一つである「なないろ」さんが行っています。産前産後のお母さんを対象に、赤ちゃんと触れ合ったり、産前産後や育児の悩みを共有して解決策を探ったりといった交流の場で、最初に開かれたのは平成23年9月のことです。場所は市内公民館の一室でした。



ふれあいカフェ初回光景

それから2年。現在は狭山元気プラザに整備されている保育室で、毎月第2、4木曜日に開かれています。スタッフは、クリスマス会やお誕生会など、参加者に楽しんでもらえるように毎回工夫をこらし、口コミや人づてなどで参加者の輪が広がっています。また、「ふれあいカフェ」の実績を積むことにより、市内公民館事業による講座受講者の子供保育を、公民館職員から依頼されるようになってきています。



現在のふれあいカフェ光景

同コース修了生は、個別に社会福祉協議会などの子育て支援事業に関わったり、地域のサークルに入っている方もいて、「なないろ」さん以外の修了生団体も誕生しています。また、年度ごとの大学授業における受講生の託児サービスにも、保育士とともに保育スタッフとして修了生が関わり、学ぶ受講生と実地で乳幼児に接する修了生の連関した構図が整いつつあります。「なないろ」さんに関しては、地域に根付いてきた今後は、外部講師から知識を取り入れたり、他の自主活動等も行えるよう、組織として一段と余裕を持てる仕組みづくり（人的・経済的）を助言できればと考えているところです。

*「コミュニティビジネス起業コース」の場合

平成25年11月末、狭山元気プラザ内のインキュベート施設であるコミュニティカフェから、一人の出店者が巣立ちました。その人の名は高山恵子さん。平成24年度コミュニティビジネス起業コース修了生の一人です。

高山さんは同コースを修了後、自身のビジネス構想に則って、平成25年2月に「パスタ のんのん」を狭山元気プラザ内コミュニティカフェに出店されました。コミュニティカフェは、市内でお店を開くことに準備・試行期間を必要とする方向けに、狭山元気プラザ内に整備された厨房・飲食スペースです。月曜日から金曜日まで日替わりで出店者が変わる仕組みで、パスタやケーキを提供するお店「パスタのんのん」は火曜日を担当していました。

高山さんの構想は、コミュニティビジネス起業家応援イベント「第2回この指とまれIN狭山」（平成25年5月25日開催：於 狭山元気プラザ）にても発表されています。

*高山さんの構想の「見える」化

起業家応援イベントにて、高山さんは、授業でビジネスモデル創生の手法を学び、自らの得意分野として調理・サービス分野を認識したと述べています。ご家族の事情もあり、近所の人が集って触れ合える場所を作るというご自身の頭の中の構想を、狭山元気大学で誰もが「見える」状態にされました。その具現化がコミュニティカフェ出店につながったこととなります。出店後、高山さんを毎週手伝われている人は、賛同してくれた自宅近所の方を始め、コミュニティカフェで料理を口にしたのち、「手伝いたい」と申し出てくれた方だったとのことでした。



パスタランチ（一例）

出店後は、パスタだけでなくワンプレート（日替わり御膳風）などにも挑戦してお客の好反応に自信を得たりと、人とのつながり・調理物への好感触を持ってコミュニティカフェを卒業されていきました。今後は自宅での開店準備を整えていきたいと語られています。



最終日の高山恵子さん（厨房の前で）

ボランティア関連以外に、地域活力に向けてコミュニティビジネスの視点を取り入れたことは、狭山元気大学開設時の大きな特徴です。自らの強みの確認と、思いを形にする（プレゼンテーション技法、財務構築等）方法を学び、受講生同士で刺激し合います。コースの修了後、高山さんのように、受講から具現までの道筋を実際に通っていく修了生の存在は、他の修了生や関係者にとっても大きいものです。前述の起業家応援イベントは、同コース修了生が中心となって平成24年度から毎年開催されています。

*同コースの今後についての補足

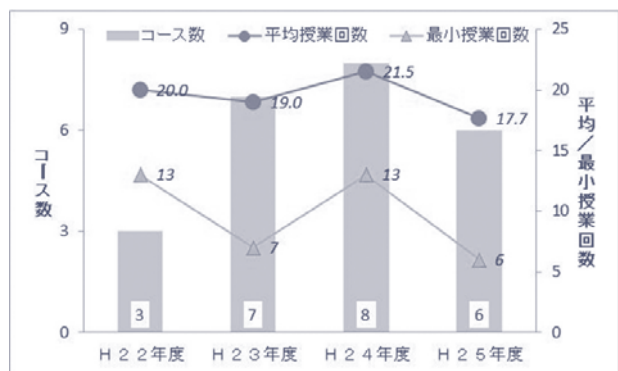
平成22年度の試行時以来開講が続いてきた同コースは、平成25年度は「まちづくり担い手養成コース」の中に位置づけられました。行政との協働で担うまちづくりに必要な知識・技法を学ぶ授業に、これまでのコミュニティビジネス起業コースの学習内容が包含された形です。

6 狭山元気大学各コースの授業設定

● ページに表示したように、狭山元気大学では

コースごとに受講生の募集を行います。それぞれのコース定員は例外を除いて20～25名定員で、各コースの授業時間は毎週1回2～4時間弱です。各コースのカリキュラムや学習期間、授業時間については、受講ターゲット層や、前年度の受講生の反応を参考に毎年見直されています。が、最近は修了要件を含め、それらの将来を見据えたコース設定が必要となってきました。ちなみに、これまでのコース数、授業回数推移を表したのが下図となります。

狭山元気大学のコース数と授業回数の推移



※上図についての補足

- 平成22年度の試行時には3コースでしたが、平成23年度本格開設以降は、協働していただける市民数増に合わせてコース数が増加。この4年間、各年度とも平均授業回数は20回前後で推移。授業は週1回であるので、平均学習期間は夏休みを挟んで約半年間。
- 平成23年度の本格開設以降はコース数が増えただけでなく、授業回数が30回を越えて10か月近くを要するコースと、逆に10回に満たず2か月程度で終わるコースの双方が、平均的なコースと併存しています。

*カリキュラム設定や授業運営の課題

端的に言うと、修了まで数か月に渡って重量感のある授業を何度もくぐり抜けた方と、二か月だけ授業（一部実技含む）に通った方が、修了生として並立しています。平成25年度で見ると、地域の防災リーダー養成コースなどの喫緊の地域課題に沿う

コースが開講しましたが、受講ターゲット層を考慮した際に、講義回数の圧縮化が起きました。他コースにおける授業内容も、ワークショップ・座学・実習・実技と、多彩さや独自色が増してきています。こうした授業内容や大学を取り巻く環境の多様化に応じて、ある程度区分されたコース設定が必要となってきました。（これまでも講座企画部門の専門委員会で、正規コースは学習期間半年以上と定め、期間設定を柔軟にするものを特別コースとする案などが出てきています）

また、平成22年度試行時に定められた単純な修了要件（出席率70%以上）を、学習期間の短いコースでは見直したり、他の要件を付け加えたりする必要性も同専門委員会で論じられ始めています。

数ある課題の中でも、授業企画に関する課題はとくに大切です。一般の資格取得学習などとは異なり、狭山元気大学の授業内容は地域課題に応じて絶えず変化しているためです。修了要件を再考する際は、各コースの授業時間の幅にもある程度の取り決めが必要となってきます。授業技法としてのワークショップをとっても、講師だけでなくサポートするスタッフの技量向上が必須となり、個々の授業を成り立たせるための条件・定義の再検討は、現状の大学組織にとっての重要課題の一つとなっています。

7 狭山元気大学の今後

修了生は、前段までに挙げた事例の他にも、地域自助を担うNPO法人を起ち上げたり、大学授業の運営や狭山元気プラザの一部施設（コミュニティカフェ）運営を担うなど、多様な活躍場所を見出しています。これは、修了生個々人のみならず、大学関

係者（講師、狭山元気大学各委員会、ボランティアスタッフ）や地域（自治会、NPO法人、各種団体等）を始めとする多くの方々の尽力の賜物です。

このように多くの人の力が集まって誕生し、運営されてきた狭山元気大学。その足腰を据える今後の道筋で必要とされることは、地域の担い手育成（大学設置本旨）を見据えた学習内容立案・検証と、育成された担い手が地域で「継続的に」活躍できる仕組みづくりです。そして、自立した大学組織として成長し続けるためには、地域と自身の関わりについて受講生が思慮して意志を持ちえる授業運営と、市内各地域の動向を俯瞰できる人材の確保、上下差のない大学内組織を着実に動かす意思決定方法の磨き上げがこれまで以上に重要となります。

ここで、平成26年度より狭山元気大学は、市の生涯学習事業として別個に実施運営されてきた狭山・シニア・コミュニティカレッジ（以下、SSCC）と統合され、新しい（仮称）市民大学として生まれ変わることになっています。そして、生涯学習領域を学習内容に含めたその新しい市民大学事業は、市内のNPO法人に全面的に委託されます。

SSCC事業は、これまでも市の委託事業として10年以上に渡り運営されてきた実績があり、そこに関わってきてくれた多数の市民の方が引き続き新しい市民大学事業の担い手として加わっていただける予定です。

名実ともに市民で組織される新しい市民大学が、上述した重要事項の遂行を引き継ぎ、地域活力を担う人材・組織の育成機関として発展し続けていくことを願ってやみません。

脚注

- 1 狭山市ホームページの狭山元気大学のページ
<http://www.city.sayama.saitama.jp/manabu/torikumi/genkidaigaku/index.html>
- 2 狭山市市民交流ポータルサイト「さやマルシェ」の狭山元気大学のページ
http://sayama-portal.jp/sayama_contents/?cmd=genkidaigaku